

～英語活動を充実させる具体策～

# 少人数・複式学級の 英語教育の取り組み

研究開発学校 北広島町芸北地域

芸北地域の小学校では、英語科を新設し、取り組んでいます。少人数・複式学級において、どんな授業をしたら、英語に興味・関心を持ち、積極的により多くの英語を話し、コミュニケーションができるのでしょうか……。それが私たちの実践研究です。

## Listen!



1・2年：歌やゲームで英語に親しもう！

\* 歌やリズム遊び、ゲームなどの活動を通して英語に慣れ親しむ。

## Write! Read!

3・4年：アルファベットタイム

5・6年：ワードタイム

\* 絵に対応する英語の単語やアルファベットに興味を持ち、読みたり書いたりしようとする。

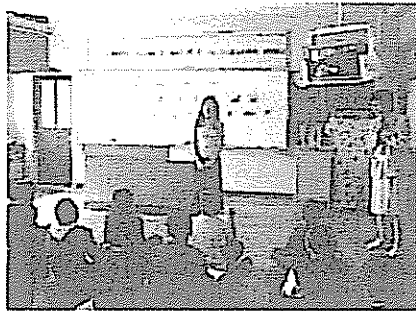


自己表現力

コミュニケーション能力

## Speak!

芸北地域小学校5校合同授業



\* 英語の音や身近な英語の単語・文に親しみ、積極的にコミュニケーションしようとする。

事業名：研究開発学校

学校名：北広島町立八幡小学校，北広島町立雄鹿原小学校，北広島町立雲月小学校，北広島町立芸北小学校，北広島町立美和小学校

### 実践事例①

#### (1) 学校名

北広島町立雲月小学校

#### (2) 学年・教科

第1・2学年 英語科

#### (3) 単元の紹介

##### ①単元名

「数字であそぼう！」

##### ②単元の目標

- ・数字1～12までの表現に興味を持つとともに，学習した表現や単語を聞き取ったり言ったりすることを通して，英語を使おうとしている。【関心・意欲】
- ・相手の言うことをしっかり聞き，自分の聞きたいことや答えたいことをいろいろな方法で相手に伝えようとする。【コミュニケーション】
- ・数字1～12までの英語表現を聞き取ることができる。【技能（聞く）】
- ・数字1～12までを英語で言うことができる。【技能（話す）】

##### ③単元の展開

- 第1時 1～12までの単語に触れる。
- 第2時 1～12までを表す単語が分かる。
- 第3時 数字を使ったゲームを通して，これまで習った数字の言い方に慣れる。

#### (4) 授業改善のポイント

##### ①指導方法の工夫

- ・単元の前半で，歌や簡単なゲームを通して，数字を聞き取らせたり，数を数えさせたりして数字の言い方に慣れ親しませた。さらに，関心・意欲を高めるために，単元の後半では，ゲームの結果に対する質問に答える活動も段階的に取り入れた。
- ・子どもたちが積極的にコミュニケーションを図るために，出会った相手と次々にあいさつを交わす活動をゲームの中に取り入れた。

##### ②教材の工夫

- ・生活の中で比較的良好に耳にする数字，特に時計や月などで身近な12までの数を取り上げた。
- ・数字カードや電話番号を使って，数を数えたり聞き取ったりするゲームを取り入れた。また，コミュニケーションを図る場面では「What number ゲーム」を取り入れ，興味を持って数字の英語表現に親しま

せるようにした。

##### ③少人数を生かした評価の工夫

- ・“Good”，“OK”，“Great”等英語での誉め言葉を積極的に使い，その都度評価し，児童が英語に自信や意欲を持たせるように工夫した。
- ・ALTの発音を聞き取り，口の形や音をまねたりしているか，楽しんでゲームに参加したりしているかなど，具体的な個々の児童の様子をみて，聞き取った英語の発音ができているかを評価した。

##### (5) 授業の様子

- ・歌やリズム感のあるチャンツでの発音練習や，児童が興味をもっている，ポケモンなどのキャラクターの描かれたカードを使ったゲームを通して，楽しみながら発音したり，数を数えたりしていた。
- ・ゲームのはじめに英語のあいさつを入れたり，より多くの場面で英語を話して進めるように内容を工夫したりすることで，抵抗なく何回も発音しながらゲームを進めていった。
- ・コミュニケーションを図る場面では，一人でも多くの友だちと挨拶を交わそうと次々と相手を見つけ



（相手を探して挨拶を交わす様子）

##### (6) 成果と課題

##### ①成果

- ・歌やリズム感のあるチャンツによって英語が楽しい，英語を使いたいという気持ちを高めることができた。
- ・発音練習において，ALTの口の形に気をつけさせ，ALTの発音をよく聞かせることを繰り返すことによって，意識してALTをまねて発音するようになった。
- ・英語のゲームに単語やあいさつなどを何度も言うことを取り入れることで，普段の生活の中で英語の単語を使う場面が見られるようになった。

##### ②課題

- ・HRTだけで授業をする時，より正確な発音が練習できる指導の工夫が必要である。
- ・児童が関心・意欲を継続して取り組める歌やゲームの工夫や開発を進める。
- ・複式指導（上学年は既習事項となる）において，発達段階に応じた教材配列の工夫が必要である。

## 実践事例②

### (1) 学校名

北広島町立八幡小学校

### (2) 学年・教科

第3・4学年 英語科

### (3) 単元の紹介

#### ①単元名

「みつけた～身の回りのもの～」

#### ②単元の目標

- ・自分の身の回りにあるもの、反対語をあらわす英語表現に興味をもち、英語を使おうとしている。

【関心・意欲】

- ・学習した単語や文章を使って自分の言いたいことを話そうとしている。 【コミュニケーション】

- ・自分の身の回りにあるものを使った、反対語の英語を聞き、理解することができる。 【技能（聞く）】

- ・自分の身の回りにあるものを使った、反対語の英語を使い、説明することができる。 【技能（話す）】

- ・アルファベットの小文字「j」、「k」、「l」の書き方が分かる。 【技能（書く）】

#### ③単元の展開

第1時 身近にあるものの単語に触れる。

第2時 反対の意味を表す単語に触れる。

第3・4時

ゲームを通して、これまで習った身近なものの単語や反対の意味を表す単語を使うことができる。

#### (4) 授業改善のポイント

##### ①指導方法の工夫

- ・色と品物を両面に印刷したカードを提示し、色から品物のイメージを膨らませることによって、身近にあるものの発音練習が楽しくできるようにした。
- ・単元の前半は単語を聞き取ったり、質問に答えたりするゲームを行い、単元の後半では相手に品物を尋ねたりするゲームを行い、言葉を組み合わせて使うよさに気づかせた。
- ・絵を見て単語を英語で答える活動と、アルファベットを書く活動を組み合わせることによって、文字と音のつながりに着目させた。

##### ②教材の工夫

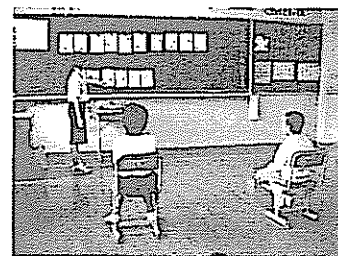
- ・生活の中で身近にあるものの名前と形容詞の反対語を組み合わせて取り上げることで、単語のイメージをとらえやすくした。

##### ③少人数を生かした評価の工夫

- ・クラスルームイングリッシュを活用し、その都度評価し、児童が英語に対して自信を持ち、意欲を高めるよう工夫した。
- ・ゲーム中でもものを説明する形容詞を正しく選んでいるかなど、児童一人一人の会話や活動の様子を見て、英語を正しく聞き取って楽しく活動しているか評価した。

##### (5) 授業の様子

- ・「暗記ゲーム」や「ミッシングゲーム」、「じゃんけんゲーム」で、英語の単語を発音す



（ことばの組み合わせで学習の様子）  
る回数を増やすようにゲームを工夫したことで、楽しく何度も発音練習を行っていた。

- ・「反対語当てゲーム」では、ゲームの中にジェスチャーを取り入れることで、動作からしっかり考え、答えが分かったときは、互いに喜ぶ姿が見られた。

##### (6) 成果と課題

###### ①成果

- ・多様な要素を含んだカードを活用してゲーム的な発音練習を多く取り入れたことで、発音の回数が増え、単語を確実に覚えるようになった。
- ・身近にあるものと反対の意味の形容詞を組み合わせることで、児童は自然にそれぞれの言葉の使い方を学び、表現の幅が広がった。
- ・文字を学習する時間を取り入れたことで、発音の違いを意識して聞くようになった。また、これまで以上に文字に対する興味を持つようになった。

###### ②課題

- ・学習した英語での挨拶や会話などを実際に使いつ場の設定が必要である。
- ・少人数（2～3人）のできる、コミュニケーション活動の開発と工夫が必要である。

### 実践事例③

#### (1) 学校名

北広島町立八幡小学校・雄鹿原小学校・雲月小学校・芸北小学校・美和小学校

#### (2) 学年・教科名

第6学年合同 英語科

#### (3) 単元の紹介

##### ①単元名

「説明しよう」

##### ②単元の目標

- ・動物を説明する文を聞き取ったり言ったりすることを通して、英語を使おうとしている。【関心・意欲】
- ・自分が表現したい動物の単語を、これまで習った文を使ったり、積極的にグループ活動に参加したりして説明しようとする。【コミュニケーション】
- ・相手の質問や話を聞いて答え、表現された単語が分かる。【技能（聞く）】
- ・動物の単語を説明する文を3～5文考え、相手を意識しながら話すことができる。【技能（話す）】
- ・簡単な英単語を書き写すことができ、書いた単語を読もうとする。【技能（書く・読む）】

##### ③単元の展開（指導計画）（全5時間）

第1時 “have”を用いて文を作る。

第2時 動詞の意味を知り，“can”を用いて文を作る。（合同授業）

第3時 説明を聞いて、当てはまる単語を想像して答える。

第4時 単語を説明する文を自分なりに考えて、言う。

第5時 単語を説明する文を素早く考え、みんなに分かるように話す。（合同授業・本時）

#### (4)授業改善のポイント

##### ①指導方法の工夫

- ・文字を扱う場面「ワードタイム」を学習活動に設定し、簡単なフォニックスや単語の書き写しを行い、文字を意識させた。
- ・芸北ブロック内5小学校の高学年が集まり合同授業を行うことで、他校の児童とコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、児童を積極的に活動させた。

##### ②教材の工夫

- ・既習の英語表現（I am ～/I am from ～./I have ～./I can ～.）を使って、動物の特徴をとらえた説明文を作ることを取り入れ、相手に分かりやすく説明する内容を考えさせた。
- ・児童の持っている知識や技能を駆使して表現し、相手に言い当ててもらい「エクスペラネーションゲーム」を取り入れた。

##### ③評価の工夫

- ・分からない言葉を指導者に相談しながら、文を作って説明しようとする意欲や態度を個別に見ながらコミュニケーション能力の向上を評価した。

#### (5)授業の様子

- ・説明をする際、小グループを編成したことで、お互いが助け合ったり、指導者にたずねたりして、問題解決に向けて知恵を出し合っていた。



《作成した文章を発表する様子》

- ・説明した動物を当てるゲームでは、今まで学習してきた適切な表現方法を使うことで、何とか相手に伝えようとしていた。

#### (6)成果と課題

##### ①成果

- ・より大きな学習集団（5校合同）で英語の授業を行うことによって、コミュニケーションを積極的に図ろうとする態度が高まった。
- ・既習の表現を使って説明させることによって、工夫次第でたくさんの内容を伝えることができることに気づかせることができた。
- ・英語を使っただけの説明という児童の知的好奇心を高めることによって、英単語や基本文の定着がよくなった。

##### ②課題

- ・合同授業の良さを生かしたカリキュラム上の位置付けを工夫する必要がある。
- ・ある程度型が決められた会話になっているので、実際のコミュニケーション場面を意識したゲームや単元構成をする必要がある。